

<活動の概要>

個人研究に関しては、個人研究および共同研究の成果の一部を国内の学会にて発表した。また、論文に関しては英文学術誌と紀要にて掲載され、また現在一本が査読中となっている。

学内プロジェクト研究に関しては、「コミュニティレジリエンスリサーチ」の代表として運営を行い、IAMAS2022 で展示を行ない、活動をまとめた。

「ライフエスノグラフィ」は分担者として補助的な仕事を担った。

今年度は、社会情報学会発行の『社会情報学』にて掲載された論文が優秀論文賞を受賞した。また、総務省東海総合通信局より、長年のラジオ研究と実践に対して、「電波の日」総務省東海総合通信局長表彰を受賞した。

<学内での活動>

1 研究プロジェクト

(1) コミュニティ・レジリエンス・リサーチ

今年度は代表を務める「コミュニティ・レジリエンス・リサーチ」の2年目として、活発にフィールドワークを実施した。COVID-19の影響はあったが、それでも最終的には25回以上のフィールドワークを実施できた。今年度は、太陽光発電の設置や空き家解体現場などでのフィールドワーク、集落の人たちへのインタビュー調査、根尾盆踊りの練習や地域の事業での発表会への参加など、より地域と密着した活動を展開した。また、内藤記念くすり博物館での視察や春日森の文化博物館（揖斐川町）など関連施設での見学、南宮大社や御首神社など、他の地域でのフィールドワークも行った。こういった活動は、春日森の文化博物館のリニューアル展示への参加や、花手水の調査研究へとつながり、研究や実践活動としての成果をあげることにもなった。

昨年度のプロジェクトから明確になったレジリエンス思考に加え、新たに社会生態システムという視点による地域の変容を観察・分析の必要性を意識した今年の活動の結果を、作品やパネルとしてIAMAS2022にて展示を行った。報告書も作成し、2022年5月に発行を予定している。

個人研究・共同研究の公開

(1) コミュニティラジオ研究

2021年に『社会情報学』に掲載された原著論文「災後・災間におけるコミュニティ放送による記憶の継承」が優秀論文賞を受賞した。また、長年のラジオ研究、実践、教育の活動に対して総務省東海総合通信局より総務省東海総合通信局長表彰を受賞した。

また、インドネシアと日本との災害ラジオに関するセミナーシリーズ

(JICA スポンサー) において、これまでのラジオ研究をもとに発表し、インドネシアの災害ラジオの発展に貢献することができた。

(2) 森のアートプロジェクト

本巢市との共同研究に企画段階からメンバーとして参加してきた森のアートプロジェクトを実施し完了した。COVID-19により、1年延期されたが根尾小学校の協力のもと、無事実施できた。根尾小学校 4～6年の生徒たちに様々なICTツールを用いて根尾の森を表現し、動画制作を行うワークショップであったが、根尾小学校と本巢市のいずれも、今回のプロジェクトを高く評価しており、制作した動画は本巢市によって公開された。

(3) 新たなメディア研究への挑戦

ケア理論をベースにしたラジオ研究を新たな研究テーマとして取り組んでいく研究を実施した。原著論文として学会に提出し、現在査読中。この知見から、ケア・コミュニケーションをメディアコミュニケーションに位置付けていける可能性を見出しており、今後も継続し、最終的に理論化させていきたい。

さらに、これまでのメディア・コミュニケーション論ではなく、アクターネットワーク論を用いたメディア研究にも挑戦した。人間と非人間を分けずに連関からつながりをみていく理論そして方法であるが、これをメディア研究に援用した研究に取り組んだ。成果としては二本の論文を発表した(以下参照)。

著書・学会発表

<著書>

Kanayama, Tomoko・Gilliford, Eiko No-neko in the Amami Islands:

Media Analysis using Actor-Network Theory* *Keio*

Communication Review 44 pp.5-22

金山智子・工藤麻里・小林玲衣奈「花手水が生みだす新たなコミュニティ

—アクターネットワーク理論から考察する異種混交的なネットワーク」

情報科学芸術大学院大学紀要第13巻,pp.68-73. 2022. 3

<学会>

金山智子「奄美のノネコ問題—アクターネットワーク理論によるメディア

分析」日本島嶼学会 2021 年次気仙沼大島大会 2021 年 9 月

金山智子・工藤麻里・小林玲衣奈「花手水の事例研究—ポストコロナ社会

に求められる寺社の新たな役割」地域活性学会 第13回研究大会

2021年9月

受賞

- 「電波の日」総務省東海総合通信局長表彰 総務省東海総合通信局
- 2021年度 優秀論文賞 社会情報学会

その他、調査や活動

これまでの研究活動や知見をシンポジウムやセミナー、メディアなどを通して、国内外で発表した。

- 総務省『今こそラジオ！～人に寄り添うメディア その先にあるもの～
総務省 放送セミナーシリーズ「ラジオを考える」第5回』（モデレーター）
- 社会情報学会『SDGsと社会情報学～持続可能な社会構築のための情報学を島から考える～』（パネリスト）
- JICA『災害ラジオの重要性とアドボカシー：研究者の視点から』日本とインドネシアの経験共有シリーズ Vol.8（登壇者）
- クロワッサン『防災 BOOK』災害時、いちばん頼りになるから、ラジオに日常的に慣れておこう。(2021年8月)
- 図書新聞 書評「令和のローカルメディアー防災・関係人口拡大に向けた課題」3528号

その他 社会活動など

- Keio Communication Review Editorial Advisory Board
- 一社)社会情報学会 評議員 および 英文誌編集長
- 名古屋芸術大学 非常勤講師
- 特定非営利活動法人地域魅力 監事
- 公益財団法人石橋財団 評議員
- 2021年全国広報コンクール審査 審査委員
- 2021年『清流の国ぎふ』SDGs推進ネットワーク」リーディング会員認定評価会議委員
- さがの映像祭実行委員会委員（デフムービー）および映画祭審査委員